

# 国 語

## 注 意

1. 問題は全部で 20 ページである。
2. 解答用紙は(その 1)(その 2)がある。(その 1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

### マーク・シート記入上の注意

1. HB の黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の ○ を塗りつぶしなさい。○ で囲んだり × をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が 1 のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
---	----------------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 1 —  
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

一般に、何かを知ろうとすれば、まず対象となる「もの」をはっきりさせなくてはならない。知るべき対象を、そうでないものから切り離す。そして、その輪郭をきちんと見定める。

「もの」を明確に取り出すには、よく分けることが大切である。その第一歩は、対象Aを他の対象(B、C、Dなど)から分離独立させること。森の絵の中に隠れているライオンやヘビを見つけだすパズルがある。葉っぱや木の枝に溶け込んでいた動物が、急に図として浮かび上がる。少し前には見えなかったライオンが吠えているではないか。

このとき私たちは、対象の輪郭を捉えたのである。いま目の前にあるのは、具体的な「物」である。私たちの目は、物の輪郭がよく見えるようにできているらしい。絵を描くときも、最初からベタツと塗りつぶさずに、ふつう輪郭から描きはじめるだろう。目が物の輪郭に敏感に反応することと関係する。

同じことは、もつと抽象的な対象の「モノ」にも当てはまる。たとえば、英語がわからないといっただけでは、あまりにも漠然として対処のしようがない。これは問題となる対象がまだはつきりと見えていないからだ。それは、単語なのか、構文なのか、文法なのか。問題点がわかつてはじめて対策がたつ。

こう考えると、「分ける」と「分かる」が同語源なのは興味深い。「分」という字の成り立ちも面白い。「八」と「刀」からなる。「八」は両分の形。刀でものをふたつに分ける意味である。「半」も刀で半分に分けることを意味する。「半」のチョンチョンはもと「八」の形だった。「刀」を意味する「リ」を加えると「判」の字ができる。判断するとは、抽象的な領域でAとBをよく分けることである。

**ア** ある物理的な対象を見定めることは、その物を理解する第一歩である。赤ん坊は、すぐに母親をそうでない人から区別する。また、善悪を見分けることは、理性的判断の要である。これが習慣的にできる人が分別のある人である。分けて分かることは、人生の万般にかかわる。



の **ウ** は数多い。ただ、先にアの音について述べた「高い低い」「大きい小さい」「澄んだ濁った」は、音を特色づける基本語だが、すべて本来の **エ** 覚表現ではない。明らかに **オ** 覚表現である。

では、鼻はどうだろう。やはり「嗅ぎ分ける」という。分けて分かる働きはここにも見られる。バラの香り、香水の匂い、腐った卵の臭いなど、たしかにいろいろなおいを嗅ぎ分ける。鼻の機能は、これでもずいぶん退化したらしいが、「香を聞く」というような洗練された分野も、片方では残っている。

しかし、「聞き分ける」もそうだが、「嗅ぎ分ける」という言い方は、実際の用途がかなり限られるだろう。たとえば、ニセ札と本物を「見分ける」ように、海賊版CDと本物を「聞き分ける」とはあまり言わない。「(聞いて)違いが分かる」と言うぐらいだ。良質のワインとテーブルワインを「嗅ぎ分ける」とも、やはり言わないだろう。「嗅ぎ分ける」という表現は、もっと本能的なものに對して用いられる。

たしかに、行為としては、日常的に聞き分けたり嗅ぎ分けたりするのだが、表現としては用途が限られている。これは少し気にとめておいていいおもしろい事実である。

この観点から、味覚と触覚を眺めよう。ここでも、実際には味の違いは分けて分かる。生地のよしあしは指先で分けて分かる。このことを日々経験する。しかし、表現として「味分ける」とは言いにくい。「味わい分ける」はまだるっこしい。「触り分ける」とか「触れ分ける」とは、まず言わない。

実際、インターネットで検索してみると「味分ける」二〇例、「味わい分ける」七七例、「触り分ける」六例、「触れ分ける」はなし、という結果だ。因みに、「嗅ぎ分ける」は、九一四〇例、「聞き分ける」は、二五四〇〇例、「見分ける」は二二三万例である。

この偏りは、何を意味するのか。ひとことでは、視覚の優位である。これには、ふたつの意味がある。外部から入る情報は、視覚を通すものが圧倒的だということ。もうひとつは、視覚に基づく表現が質量共にもっとも重要な言葉の素材となっているということである。

その結果、「味分ける」という代わりに、「味を見分ける」という。「味を見る」「味見」なども日常表現である。「触り分ける」の代

わりに「生地のよしあしを見分ける」という。このときの「見分ける」の「見」の意味は、見るより知るだが、この意味は、すでに見たように「見る」に含まれる。

すなおに考えれば、分けるという行為は、本来的に視覚のことばである。分かるためには、まず、目で分けるのが一番だ。目で見分けたものは、具体性が高く、人びとのあいだで共通の理解の基礎となりやすい。視覚の表現がことばのなかにあまねく広がるのは、偶然ではないだろう。

カ。

(瀬戸賢一『よくわかるメタファー』による)

問一 傍線部「刀」を意味する「リ」とあるが、この形の部首の名前は何か。最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **1**。

- ① かたながまえ
- ② てづくり
- ③ りつとう
- ④ ぎょうにんべん
- ⑤ ふたつぼう

問二 空欄 **ア** に入る適切な文として、最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **2**。

- ① 理性でわかることは認識のうちほんの少しである。
- ② 分割の対象は多くの場合非常に抽象的なものである。
- ③ 単純に考えれば、人間の認知能力はもともととても低い。
- ④ 当たり前だが、大人と子供とは見ているものがまったく違う。
- ⑤ よく分けることはよく分かることとはじまりである。

問三 傍線部2「イコウ」に当たる漢字として、最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 3。

① 威光

② 以降

③ 意向

④ 異項

⑤ 移行

問四 空欄 イ には、あることわざが入る。最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

4。

① 人の振り見て我が振り直せ。

② 木を見て森を見ず。

③ 百聞は一見に如かず。

④ 故きを温ねて新しきを知る。

⑤ 見ざる聞かざる言わざる。

問五 傍線部3「チクセキ」を漢字で記せ。問五は解答用紙(その2)を使用。

問六 空欄 ウ に入る言葉として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 5。

① 音声

② 擬音

③ 母音

④ 低周波

⑤ 環境音

問七 空欄 

エ
---

 と空欄 

オ
---

 にそれぞれ漢字1字を入れよ。問七は解答用紙(その2)を使用。

問八 傍線部4「香を聞く」というような洗練された分野」とあるが、何のことか。最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 

6
---

。

- ① 聴覚によって文学的世界のイメージを想像する手法。
- ② 日本古来の香りについての知識を深めるための調査。
- ③ 音楽を楽しむために、人に聞いてその由来を確かめること。
- ④ 雅楽の中で、中国古来の香薬について触れた部分の演奏。
- ⑤ 香の香りを嗅いで味わったり、名前をあてたりする行為。

問九 傍線部5「聞き分ける」という語の通常の表現の例として、最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答

欄番号は 

7
---

。

- ① 先生の話からみんな自分の将来を聞き分けることができる。
- ② 誰でも人から聞いたことを十分に聞き分けるのが重要だ。
- ③ 羊は自分の飼い主の声をちゃんと聞き分けることができる。
- ④ 彼は、どんな音でも聞き分けがよいので音楽家に向いている。
- ⑤ 太郎は聞き分けの悪い耳を持っているのがとても残念だ。

問十 傍線部6「味を見る」とあるが、なぜ「味」を「見る」ことができるのか。この文章の趣旨に合わせて最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 8。

- ① 料理を手で触って、その状態をよく見ることと共通の表現になっているから。
- ② 「味見」という表現を長く伸ばしただけで、特別な意味はないから。
- ③ 料理人など特殊な人の持つ能力の表現として「見る」の語を用いたから。
- ④ この場合の「見る」は、味の善し悪しを確かめてみるという意味であるから。
- ⑤ 「見る」は、この場合、分割して理解するということの表現になっているから。

問十一 空欄 カ には、この文章のまとめとなるような文が入る。最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 9。

- ① 五感はすべて、人間にとっても重要なものである。
- ② 視覚のことは、よく分かることばの中心にある。
- ③ 人間は感じることをすべて利用している生き物である。
- ④ 人間の認知能力の基礎は事物の分割行為にあるのは明らかだ。
- ⑤ 誰が見てもわかることには実は非常に単純な真実が隠れているのである。



二 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

唐土に侍りし時、人の語り侍りしは、昔、この国に卑しからぬ人ありけり。その家極めて豊かなり。

秋夜、高樓に登りて、月を眺めてありけるに、夜静まり、人寝さだまりて、音する物なし。かかりけるに、そこなりける馬と牛と、物語りをなんしける。馬のいふやう、「あな悲し、わびし。いかなる罪の報いにて、この人に使はれて、昼は日暮らしといふばかりに、かく使はれ居るらん。夜も、心よくうち休むべきに、杖目\*ことに痛くわびしく、あまり苦しくて、心のままにもえ休まず。明日また、いかに1さまに使はれんとすらん。これを思ふにとにかくに寝ねも安からず」といふ。また、牛のいふやう、「さればこそ。あはれ、悲しきものかな。我かかる身を受けたるとは思へども、さしあたりては、ただこの人の恨めしき、するかたなく覚ゆる」といひけり。

これを聞くに、心もあられず悲しくて、妻と娘とにいふやう、「我は今夜忍びてこの家を出でんと思ふ事あり。かかること侍るぞや。今、あり経んままには、かやうの事ぞ積るべき。2財は身の敵あたにて侍るにこそ。この家をば捨てて、いづくともなく行きて、人もなからん所の、静かならんに行きて、後世3のこと思ひてあらむずるなり。そこたちはここに留まるべし」といひければ、二人の人のいふやう、「誰を頼みである身なればか残りては侍るべき。いづくにても、おはせん方に A 慕ひ聞こえぬ」といふ。「さらば、さこそは侍るなれ」とて、親子三人、忍びに出にけり。

さて、遥かに行きて、思ひかけぬ山の麓に、庵、形のやうに構へて、4 箆器すきといふ物を日に三つ作りて、この娘にて売りに出だしける。5 かくて世を渡りけるほどに、ある時、この箆器を買ふ人なし。むなくし帰りぬ。6 また次の日の分、具して持て出でたれども、その日も買ふ者なし。また次の日の分具して、九の箆器を持て行きたりけれども、この日も買ふ者なし。娘、思ひ嘆きて、「かくてのみ日は重なる。我が父母の命も長らへがたかるべし。いかにさまにせむ」と煩わづひけるほどに、道に錢を一貫落としたりけり。この娘、箆器をこの錢に結び付けて、箆器の価あたいを数へて錢を取りて、残りの錢と箆器とをば、もとの所に置きて来にけり。

さて、このよしを語りければ、父、大きに驚きていふやう、「何わぎ營まんとて持ちたる錢にかありつらむ。親の物にてもありつらむ、主の物にてもあるべし。たとひ取るにても、一つの箆器を置きて一つの価をこそ取るべけれ。いかなる者か、一人して箆器を九つ買ふことあるべき。かかる濁りある心持ちたらん者は、疎ましく覚ゆ。早、みな持て行きて、もとの錢に貫き具して、ただ箆器を取りて来よ」といふ。娘、行きて見るに、この錢なほありければ、もとのままにして、箆器を取りて来て見れば、父も母も、ともに手を合はせて、頭を垂れて死ににけり。「あな、悲しのわざや。我もありては何かせん」とて、娘もそばに居て死ににけりとなん。

これを聞き侍りしに、あはれ尽くしがたく侍りき。まことに、さやうの心を持ちてこそ、仏の道をも願ふべきに、身にはわづかに道を学ぶやうにすれども、心は常に濁りに染みたらんは、定めて三宝を欺く咎もあるべし。いかが侍るべからんと悲しくあぢきなし。かの昔の三人、今いかなる菩薩にて、いづれの仏の御国にかいまそかるらん。「願はくは、我が心をあはれみて、念々に彼に等しからむと思ふ心を給へ」と、心の中に念じ侍りき。

さて、この人どもの姿をも、絵に描きて売るとぞ語り侍りし。すべて唐土は、かやうのことはいみじく情ありて、亡き後までも侍るにや。この日本の国には、さやうの人の姿、買ふ者もよにあらじ。描きて売らんとする人も、また、稀なるべきにや。

(『閑居友』による)

\*杖目||杖で打たれた傷痕。

\*箆器||竹で編んだ籠やざるの類。

\*三宝||仏・法・僧のこと。

\*念々||一念ごと、すなわち瞬間瞬間ごとに。

問一 傍線部1「いかさまに使はれんとすらん」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号

は 10。

- ① どのように酷使されるのだろう。
- ② きつと不正なことに使用されるのだ。
- ③ どのような人に仕えるのだろう。
- ④ どの方々に使われたいのだろう。
- ⑤ どのように使われればよいのだろうか。

問二 傍線部2「かやうの事ぞ積るべき」は、ここではどのようなことを言っているのか。最適なものを次の①～⑤から選び、記

号をマークせよ。解答欄番号は 11。

- ① 牛や馬を大切にしないことで家族に不幸が続くこと。
- ② 悲しみのあまり隠れて家を出て行かなくてはならないこと。
- ③ 牛や馬の愚痴を毎晩聞かなくてはならないこと。
- ④ 様々なものからの恨みが重なってゆくこと。
- ⑤ 妻や娘が恨まれる日々が続くこと。

問三 傍線部3「後世のこと思ひてあらむするなり」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄

番号は 12。

- ① 後の世代のことなどは思っていないのだ。
- ② 来世のことを考えて過ごしたいのだ。
- ③ 後世に名を残そうと思っているのだ。
- ④ 後世の不名誉などを思っているのだ。
- ⑤ 来世のことなど思っていないのだ。

問四 傍線部4「誰を頼みてある身なればか残りては侍るべき」の現代語訳として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマ

クせよ。解答欄番号は 13。

- ① いったい誰かを信頼している身になれば、残ることができるでしょうか。
- ② 誰かを頼りにして存在できる身の上ならば、残ることができるでしょう。
- ③ 他の誰かを頼りにすることができるとは、残って側にお仕えいたしましょう。
- ④ いったい誰を頼りとして生きている身で、ここに残ることができましょうか。
- ⑤ 誰も頼みにできない身になれるならば、残っていることもできるでしょうか。

問五 空欄 A に入る最適な助詞を記せ。問五は解答用紙(その2)を使用。

問六 傍線部5「かくて世を渡りける」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

14。

- ① 親子三人の立派な住居を作り、娘の作った箆器を売る生活。
- ② 形通りに庵と箆器を作ってはあちこちを移動する世渡り。
- ③ 粗末な家に住んで、箆器を作って売る暮らし。
- ④ 遥かな山の麓に庵を作り、箆器を作ってさまざま生活。
- ⑤ 庵のような形の箆器を作り、娘を売りに出すような人生。

問七 傍線部6「また次の日の分、具して」のここでの具体的な意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **15**。

- ① 父と母を連れて。
- ② 合計九つの箆器を持って。
- ③ 牛と馬を伴って。
- ④ さらに多くの具材を携えて。
- ⑤ 六つの箆器を持って。

問八 傍線部7「このよし」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **16**。

- ① 道に落ちていた銭から、箆器九つ分の対価を得て帰ったこと。
- ② 道に銭を落としてしまい、箆器も全て置いてきたということ。
- ③ このまま箆器が売れない日が続く大家族全員が死んでしまうということ。
- ④ 道に銭が落ちていたので、それを持ち帰ったということ。
- ⑤ 箆器一つ分の代金を道に落ちていた銭から持ち帰ったということ。

問九 傍線部8「つらむ」の文法的説明として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **17**。

- ① 「つ」は完了の助動詞の連用形、「らむ」は婉曲の助動詞の終止形。
- ② 「つら」は名詞、「む」は推量の助動詞の終止形。
- ③ 「つ」は強意の助動詞の終止形、「らむ」は推量の助動詞の連体形。
- ④ 「つ」は強意の助動詞の終止形、「ら」は完了の助動詞の未然形、「む」は推量の助動詞の終止形。
- ⑤ 「つ」は完了の助動詞の連用形、「らむ」は伝聞の助動詞の連体形。

問十 傍線部9「かかる濁りある心」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 18。

- ① 笨器を九つ買う人の身を考えないという商人にあるまじき心。
- ② 一つの笨器に相当する銭を持ち帰らないような心。
- ③ 父母と自分が生き長らえるためには勘定をごまかしても構わないという心。
- ④ 銭を落とした人の気持ちを思い遣ることができない心。
- ⑤ 貧乏な暮らしに嫌気がさして、道に落ちていた銭を盗んでくる心。

問十一 傍線部10「亡き後までも侍るにや」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

19。

- ① 自分が死んだ後までも大事に思ってくれる人がいるのだろうかということ。
- ② その人達の没後でも人徳を讃えるということがあるのだろうかということ。
- ③ 全てがなくなつたとしても崇高な精神は存在しているのだろうかということ。
- ④ この世に無くなつてしまつた後にも存在し続けるものがあるのだということ。
- ⑤ 亡くなつてしまつた後にも側にいるものがあるだろうか、いやないのだということ。

問十二 『閑居友』は仏教説話集に分類されるが、次の①～⑤から仏教説話集を一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

20。

- ① 今鏡
- ② 日本靈異記
- ③ 文鏡秘府論
- ④ 山家集
- ⑤ 宇治拾遺物語

### 三 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

東京電力・福島第一原発の事故のあと、誰もが関心を持つようになった「エネルギー」といっても、里山資本主義が語るエネルギー問題は、「自然エネルギーに切り替えて脱原発を実現しよう」といった、よくある話ではない。二〇世紀、日本人が当たり前<sup>1</sup>に持ってきたエネルギー観を根底から覆そうではないか、という話をしていきたい。

舞台は、岡山県真庭市<sup>まにば</sup>。岡山市内から車で北へ向かうこと一時間半。標高一〇〇〇メートル級の山々が連なる中国山地の山あいにある町だ。ここで日本でも、いや世界でも最先端のエネルギー革命が進んでいる。

真庭市は、二〇〇五年に周囲の九つの町村が合併してできた、岡山県内でも屈指の広さを持つ。しかし、人口は五万に過ぎず、その面積の八割を山林が占めるという、典型的な山村地域だ。

「ようこそ木材のまちへ」。国道沿いの看板が、訪れる人を誇らしげに出迎えてくれる。

地域を古くから支えてきたのが、林業と、切り出した木材を加工する製材業。市内を車で走れば、丸太を山盛りに積んで走るトラックと次々すれ違う。あちこちに木材を高く積み上げた集積所を見かける。

市内には大小合わせて三〇ほどの製材業者がある。どこも、数十年来出口の見えない住宅着工の低迷にあえぎながら、厳しい経営を続けている。もちろん、木材産業が厳しいのは、真庭市に限った話ではない。全国的にみれば、一九八九年に一万七〇〇〇あった製材所の数は、二〇年間右肩下がりを続け、二〇〇九年には、七〇〇〇を切っている。

それほど厳しい製材業界にあって、「発想を一八〇度転換すれば、斜陽の産業も世界の最先端に生まれ変わる」と息巻く人物が真庭市にいる。交じりけのない、真っ白でさらさらの髪がとても印象的な人物。還暦を迎えたばかりの、中島さんである。

中島さんは、住宅などの建築材を作るメーカー、M工業の代表取締役社長だ。従業員は二〇〇名ほど。年間二五万立方メートルの木材を加工。真庭市内の製材所で最大、西日本でも最大規模を誇る製材業者の一つである。

そんな中島さんが、一九九七年末、建築材だけではじり貧だと感じ、日本で先駆けて導入、完成した秘密兵器が、広大な敷地

内の真ん中に鎮座する銀色の巨大な施設だ。高さは一〇メートルほど。どっしりとした円錐形のシルエット。てっぺんからは絶えず、水蒸気が空へと上がっている。

これが今やM工業の経営に欠かすことができない、発電施設である。製材所で発電？エネルギー源は何？この問いにピンとくる方は、かなり自然エネルギーへの関心が高い方といえる。答えは、製材の過程で出る、木くずである。専門用語では「木質バイオマス発電」と呼ばれている。

山の木は切り倒されると、丸太の状態で工場まで運ばれてくる。工場で樹皮を剥ぎ、四辺をカットした上で、かんなをかけて板材にする。その際にでるのが、樹皮や木片、かんなくずといった木くずである。その量、年間四万トン。これまでゴミとして扱われていたその木くずが、ベルトコンベアで工場中からかき集められ、炉に流し込まれる。炉の重い鉄の扉を開けてもらう。灼熱の炎が見え、火の粉が勢いよく噴き出す。むわっと熱気で顔がひりつく。発電所は二四時間フルタイムで働く。その仕事量、つまり発電量は一時間に二〇〇〇キロワットアワー。一般家庭でいうと、二〇〇〇世帯分。

それでも一〇〇万キロワットというとんでもない出力を誇る原子力発電所と比べると、微々たる発電量である。

<sup>5</sup> こうした話になると、とりわけ震災後は「それで原子力発電がいらなくなるのか？」といった議論ばかりされるが、問題はそこではないのだ、と中島さんは語気を強める。<sup>6</sup>

「原発一基が一時間でする仕事を、この工場では一ヶ月かかってやっています。しかし、大事なのは、発電量が多いか少ないかではなくて、目の前にあるものを燃料として発電ができていて、ということなんです」

会社や地域にとってどれだけ経済効果が出るかが大事、なのだ。

中島さんの工場では、使用する電気のほぼ一〇〇パーセントをバイオマス発電によってまかなっている。 A、電力会社からは一切電気を買っていない。それだけでも年間一億円が浮く。

B 夜間は電気をそれほど使用しないので、余る。それを電力会社に売る。年間五〇〇〇万円の収入になる。電気代が一億円節約できた上に、売電による収入が五〇〇〇万円。しめて、年間で一億五〇〇〇万円のプラスになっている。



C、毎年四万トンも排出する木くずを産業廃棄物として処理すると、年間二億四〇〇〇万円かかるという。これもゼロになるわけだから、全体として、四億円も得しているのだ。一九九七年に完成したこの発電施設。建設には一〇億円かかった。

当時、日本はバブル崩壊後のいわゆる「失われた一〇年」<sup>7</sup>に突入していた。建築用材の需要もますます低迷し、中島さんの会社は初めての赤字を経験。そんななかで銀行に持ちかけた、エコ発電所建設の話に、銀行の融資担当はあきれたという。設備投資といえは、まだまだ事業拡大に振り向けるのが常識だったからだ。

「銀行からは、電気ではなくて、たとえば生産規模を上げるための設備とか、加工度を上げる設備とか、投資先は他にいくらでもあるだろうと言われました。エネルギーなんていうものは、最優先ではないでしょう、そういう言い方でした」

ましてや、電力会社に電気を売る日が来るとは誰も想像していなかった時代だ。それでも、中島さんはなんとか銀行を説得し、発電事業に乗り出した。しかしすぐには、売電できなかつた。

「買い取り価格が割に合わなかつたからです。電力会社は、電気は買うというのですが、一キロワット三円だということです。あまりに安く、なぜ三円なのかと聞くと、電力会社が運転する石炭火力の発電所は燃料が一番安い。おたくの電気を買うと、使用する石炭が減る、カウントするのはその減つた分だけと言われたんです」

いったんは自家用のためだけに発電を始めた中島さん。しかし、時代はすぐに追いついた。二〇〇三年、電力会社に自然エネルギーの導入を義務づける法律が成立。これによって、逆に電力会社から売電を求められるようになり、価格は一気に利益が見込める九円に上昇。ようやく、売電にも乗り出せた。

私たちが取材に訪れた時点で、バイオマス発電導入から一四年。<sup>8</sup>ゲンカ償却はとづくに終え十分すぎるくらい元を取った。でもまだまだ現役だという。木材は、石油や石炭で発電するのに比べずっと炉に優しく、メンテナンス業者が驚くほど痛みが少ないという。

こうして中島さんの会社の経営は持ち直した。時代の最後尾を走っていると思われる製材業。しかし、再生のヒントは、

すぐ目の前にあったのだ。

農林水産業の再生策を語ると、決まって「売れる商品作りをしろ」と言われる。付加価値の高い野菜を作って、高く売ることを求められる。もしくは大規模化をして、より効率よく、大量に生産することを求められる。

そこから発想を転換すべきなのだ。これまで捨てられていたものを利用する。不必要な経費、つまりマイナスをプラスに変えることによる再建築もある。それが中島さん流の、経営立て直し術だったのだ。

(藻谷浩介『里山資本主義』による)

問一 傍線部1「日本人が当たり前に持ってきたエネルギー観」とあるが、この文章を後まで読んで、その「エネルギー観」の説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 21。

- ① 石油などの埋蔵資源には限界があるので、その他の資源を探るべきだとしている。
- ② 省エネが日本の将来にとって非常に重要なものであると考えている。
- ③ エネルギー問題は工業にとってさほど重要な視点ではないと思っている。
- ④ 原子力発電などの大量供給の手段が中心となるべきだと想定している。
- ⑤ 火力発電が今後とも重要なエネルギー供給源となるべきだと推定している。

問二 傍線部2「看板が、訪れる人を誇らしげに出迎えてくれる」とあるが、どういう意味の表現か。説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 22。

- ① 木々が立ち並ぶ山の様子を大勢の人間の列に喩えている。
- ② 「ようこそ」という出迎えの強い気持ち看板に込めている。
- ③ 山村のものの寂しさを打ち消すように元気の良い看板がかかっている。
- ④ 人口のすくない村の中でこれで活力を補って欲しいという気持ちがある。
- ⑤ 林業が盛んな町であることを、看板を擬人化した表現で強調している。

問三 傍線部3「発想を一八〇度転換すれば」とあるが、どのように「転換」したのか。最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **23**。

- ① 製材業だけでなく、生産物の多様化における多角経営を行ってゆく。
- ② 電力を中心にすえた新しい方法で、ありとあらゆる方法で発電を行っていく。
- ③ 銀行との関係を見直すことを第一として、それに適した方法を考えていく。
- ④ 大型の機械を中心に、設備投資を行って、重厚長大な会社としていく。
- ⑤ 生産や需要だけを考えるのではなく、生産工程全体を見直す経営にする。

問四 傍線部4「鎮座する」とあるが、もともと「鎮座する」とはどういう場合に使う表現か。最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **24**。

- ① 大きな塊状のものが音もたてずに留まっている。
- ② 重量のある金属の物体が場所を占有している。
- ③ 神仏などが一定の場所に存在している。
- ④ 動物などが動かずにあたりを伺っている。
- ⑤ 大変に高位の人物が王座などに着座している。

問五 傍線部5「こうした話になると」とあるが、「こうした話」とはどういう趣旨か。最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **25**。

- ① 製材業界の苦しい経営事情の内実。
- ② 木材のリサイクルと林業との関係。
- ③ 再生可能エネルギーによる新しい発電方法。
- ④ 木くずをどのようにして発電のための材料にするかの手法。
- ⑤ 自然災害に対してどのような対策をしていくかの一例。

問六 傍線部6「語気を強める」とあるが、どういう意味か。最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **26**。

- ① 反対者をねじふせるような勢いで圧倒する。
- ② 少し荒々しい口調で相手を驚かせる。
- ③ 大きな声を出したりして意図を強調する。
- ④ 力強く語ることで相手をだまそうとする。
- ⑤ 怒りを含んだ声であくまで自己主張する。

問七 空欄 **A** ・ **B** ・ **C** には、それぞれ接続詞が入る。その組み合わせ(A・B・Cの順)として最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **27**。

- ① つまり・しかも・しかも
- ② だから・しかし・あげくのはて
- ③ まして・だが・つまり
- ④ なるほど・そこで・しかし
- ⑤ しかし・つまり・また

問八 傍線部7「失われた一〇年」とは、現在一般にどういう意味で理解されているか。最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **28**。

- ① その間の記憶がほとんど失われてしまった時代。
- ② 経済活動が低迷しほとんど成長が期待できない期間。
- ③ 政府による経済政策がまったく行われなかった時期。
- ④ 銀行の融資体制が整わず企業の資金繰りが困難だった時。
- ⑤ 主に木材加工業にとっての逆風が吹いた時代。

問九 傍線部8「ゲンカ償却」の「ゲンカ」の部分に漢字で記せ。問九は解答用紙(その2)を使用。

問十 傍線部9「付加価値」とあるが、ここでいう「付加価値」とはどういう意味か。最適なものを、次の①～⑤から選び、記号を

マークせよ。解答欄番号は **29**。

- ① 自然エネルギーを用いた電力による新しい価値。
- ② 電力を使って価格を上げることで生まれる価値。
- ③ 他の異なる商品と比較した場合の価格差。
- ④ 生産方法などを変えることで生じる特別な価値。
- ⑤ 消費者にとって本来必要としない無駄な費用。

問十一 著者がこの文章で述べる「里山資本主義」とはどういうものか。この文から読み取れる範囲の最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **30**。

- ① 電力を生産することで日本のエネルギー事情を抜本的に改革できる手法。
- ② 売れる商品作りをすることで金銭的に確実な収益増加を図るやり方。
- ③ その地方で持続可能な経営手法を用いることで生産至上主義を脱する方法。
- ④ リサイクルによって資源を節約することを第一の目的とするやり方。
- ⑤ 山地の特産物を生産・加工することで一点集中型の産業を育成していく形。





